

東京都・渋谷区

時代を超え今も残るB級グルメの老舗

渋谷の街 この十年

十年一昔というが、渋谷駅周辺の街並みは、この十年間で劇的な変化を遂げている。奇しくも昨年の平成25年は、渋谷区歯科医師会の創立80周年にあたる。十年前の平成15年、70周年記念誌に「渋谷いま 過去と未来」と題し、その年6月に閉館した駅前の東急文化会館の思い出を私は綴った。当時、最上階にプラネタリウム、4つの映画館に、大きな本屋やレストランがある文化会館は、昭和32年に開館し、その名のごとく渋谷の文化施設の象徴となり、半世紀近いその歴史に幕を閉じた。



閉館した東急文化会館

文化会館の跡地には、一昨年「ヒカリエ」という複合商業施設が、そして昨年にはその地下に走る東京メトロ副都心線と東急東横線が直結し、地上を走る東横線のホームが閉鎖されたのは記憶に新しい。現在は駅に隣接する東急東横店の一部も閉鎖され、更なる開発が進行中だ。



跡地にヒカリエ（地上34階）

変貌を続ける街の中で

1970年代から若者の文化、ファッションの流行の拠点として、今なお君臨する渋谷は、ハチ公前のスクランブル交差点の若者の人波を見ればわかるように毎日がお祭り騒ぎのような喧騒ぶりだ。

渋谷駅周辺のデパートや商店、映画館にライブハウスは、彼らを相手にその存続を賭けて、しのぎを削っている。開店して1年足らずで閉店など珍しくもない。特に飲食店は、その時代の食べ物のブームで街中にモツ鍋屋やらイタリアンが乱立したりする。

今回はそんな激戦地区で生き残っているB級グルメの老舗を紹介する。

喜楽（ラーメン） 1952年創業 62年目

ハチ公前から道玄坂を上がっていくと右側に百軒店（ひゃっけんだな）と書かれた赤い鳥居門が入り口の通りがある。その通りをしばらく行くと、左手にあるのが喜楽だ。中華麺650円、黄色い極太麺にモヤシと味玉、厚めのチャーシューがトッピングの醤油味。昨年改装のため一時休業しただけで、ネットで「閉店か!？」と大騒ぎになるほど根強いファンが多い店だ。シンプルだが、それゆえにやみつきになるラーメン。リピーターが多いのも納得のお店。



ムルギー（カレー） 1951年創業 63年目

前述の喜楽を通り過ぎ、つきあたりを左に曲がりすぐ右手にあるレンガ造りの古いお店がムルギー。



ビルマ戦線から復員した初代が現地で覚えたカレーをメニューに63年前に開業。今は三代目。ここのイチオシは、玉子入りムルギーカレー1,050円。ルーは初め香辛料の味だけで辛いがないが、食べていくにつれて辛さと味わいが出てくる。



ビルマの山脈とレド公路

山のようにそびえ立つライスは登山好きだった初代の発案とのこと。何げにビルマ戦線のことを調べているとインドと中国を結ぶレド公路なる当時の写真が出てきた。驚くことになぜかその風景と山を見立てたカレーが似ている気がする。インド風でも洋風でもないスパイスの効いた不思議な味の秘密は奥が深そうだ。

※お店の詳細はパソコンの検索で。

（風間久徳・74回記）